

# 世界を巡る美術探検

木村 重信 著

2012年7月刊行

▶ A5判・308頁／定価 2,520円(税5%込) ISBN978-4-7842-1638-3

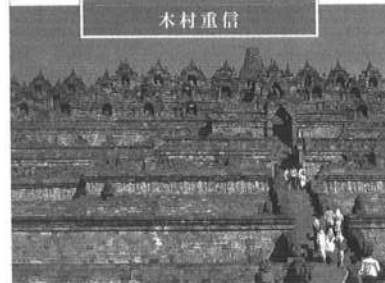
和・漢・洋中心の美術史に一貫して異を唱え、民族芸術学を提唱してきた著者が、北極・南極・シベリアを除く、世界のほぼ全域で行ったフィールドワークのルポルタージュ。35の地点や地域をとりあげる。

ヨーロッパ・アジア・アフリカ・オセアニア・アメリカの5つに分けて、先史時代から現代まで時代順に構成。現地調査した著者の観察を中心に、歴史という時間的縦軸と、地域という空間的横軸とを交差させて叙述。あるときは芸術性が、あるときは宗教性が、またあるときは旅そのものがメインになるように切り口を変えて綴る、世界美術への招待。

前著『美術史家 地球を行く』(ランダムハウス講談社、2008年)の続編。

世界を巡る  
美術探検

木村 重信



思文閣出版

## I ヨーロッパ

ドルニー・ヴィエストニツェ(チェコ) 氷河時代のテラコッタ製女性像  
ヴィンゲン(ノルウェー) 極北の先史岩面画遺蹟  
ストーンヘンジ(イギリス) 死を象徴する巨石モニュメント  
サルデーニャ島(イタリア) 立体派的なヌラーゲ青銅彫刻  
ミロ島(ギリシア) 古典的半裸体の擬古作  
スプリト(クロアチア) ローマ皇帝の宮殿が市街になった  
サン・ブノワ・シュル・ロワール(フランス) 古代ゴローワ彫刻の復活  
ベルゲン(ノルウェー) ハンザ同盟時代の美しい街並み

## ● 目次 ●

## II アジア

モヘンジョ＝ダロ(パキスタン) 忽然と滅びた古代都市  
三星堆(中国) 歴史を覆す王像(?)の発見  
バビロン(イラク) イシュタル門、空中庭園、バベルの塔  
ジョグジャカルタ(インドネシア) 伝統文化の息づく古都  
ムンバイ(インド) ヒンドゥー教の男女両性具有神  
台北(台湾) 故宮博物館名品の特別展示  
アンコール(カンボジア) 「祇園精舎」と考えられた寺院(ワット)  
江南(中国) 名水をたずねて水郷に行く

## III アフリカ

アドラール・デ・ジフォラス(マリ) 砂漠の真ん中の象の刻画  
デンデラ(エジプト) 優美、端正なクレオパトラ浮彫像  
アクスム(エチオピア) プレスター・ジョンの国  
ベニン市(ナイジェリア) 黒人彫刻の古典  
フェス(モロッコ) 世界一の迷宮都市  
ガルダイア(アルジェリア) ムザブの谷にひろがるキュビズム風建築  
シュピールマン・クラール(南アフリカ) 華美、幻想的なンデベレ壁画  
マハラピ(ボツワナ) 華麗な衣服を着る、オシャレなヘレロ人

## IV オセアニア

タヒティ島(フランス領ポリネシア) 石像(ティイ)と石像祭祀場(マラエ)  
ヴァヌアツ(ヴァヌアツ) 多様な石のモニュメントと洞窟壁画  
ボラ・ボラ島(フランス領ポリネシア) I・A・ミッチェナー『南太平洋物語』の舞台  
ロトルア(ニュージーランド) 温泉地に渦巻くマオリ模様  
アーネム・ランド(オーストラリア) アボリジニの木彫と樹皮画

## V アメリカ

オアハカ(メキシコ) 先住民文化の本拠  
ナスカとパラカス(ペルー) 不思議な地上絵とユニークな工芸  
テオティワカン(メキシコ) 南北アメリカ最大の古代都市  
タオス(アメリカ) 日干煉瓦(アドベ)の多層アパート式住居群  
ヴァンクーヴァー(カナダ) 北西海岸先住民美術の過去と現在  
ニューオーリンズ(アメリカ) フランス風のジャズ発祥地



皮なめし、染色工房 (モロッコ)



祭司、前1千年紀前半  
(イタリア)



ディウイ人木製人物像  
(現代・オーストラリア)

きむら・しげのふ...1925年京都府生まれ。京都市立芸術大学教授、大阪大学教授、国立国際美術館館長、兵庫県立近代美術館館長など歴任。現在、大阪大学名誉教授、京都市立芸術大学名誉教授、兵庫県立美術館名誉館長、染・清流館館長、民族芸術学会名誉会長、文学博士。毎日出版文化賞、大阪文化賞、勲三等旭日中綬章など受賞。著書多数。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel075-751-1781 fax075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

| 注 文 票 |                                                                                                       | 発 行 : 思 文 閣 出 版 |        | (京 都 取 引 コー ド 3402)                |  |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--------|------------------------------------|--|
| 冊 数   | 冊                                                                                                     | 世界を巡る美術探検       |        | 本体2,400円(税別) ISBN978-4-7842-1638-3 |  |
| お 名 前 |                                                                                                       |                 | tel    |                                    |  |
|       |                                                                                                       |                 | e-mail |                                    |  |
| ご 住 所 | 〒                                                                                                     |                 |        |                                    |  |
| 送本方法  | <input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい)<br><input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い) |                 |        |                                    |  |
|       |                                                                                                       |                 |        | 書店番線印                              |  |

## 木村重信著作集 【全8冊】

木村重信著

※原始美術から現代美術までの広汎な業績のなかから再編成された著者自選の著作集

※フィールドワークにもとづく多彩な民族芸術論はもとより現代美術論・現代文明論など主要な学術的成果を収めた定本

※主要著書および単行本未収録のものを各巻のテーマにそって編集

※適宜挿入図版を収め各巻に索引を付す

※巻末に第一線の研究者による解説を併載



- ①※美術の始源(解説:小川勝)
- ②はじめにイメージありき(神林恒道)
- ③美術探検(福本繁樹)
- ④民族芸術学(吉田憲司)
- ⑤世界美術史(肥塚隆・岡田裕成)
- ⑥現代美術論(関府寺司)
- ⑦美術評論(建皇哲)
- ⑧生活文化論(藤田治彦)

ISBN4-7842-1023-7  
ISBN4-7842-1042-3  
ISBN4-7842-1049-0  
ISBN4-7842-1066-0  
ISBN4-7842-1102-0  
ISBN4-7842-1156-X  
ISBN4-7842-1170-5  
ISBN4-7842-1197-7

▶A5判・平均500頁／定価 ①8,925円 ②～⑧各9,975円 揃78,750円

## 船筆笥の研究

小泉和子著

近世海運において船乗り達が船内に持ち込んで使っていた収納家具、船筆笥。その成立から終息までを歴史的に考察し、デザインの形成を検証の上、その本質を明らかにする。様式史としてではなく、船筆笥自体を歴史を語る史料として試みた意欲的な一書。巻末に基礎資料として、浦証文一覧と、船筆笥215点の写真付き詳細データを収録。

▶A5判・本文402頁 口絵8頁／定価 6,300円 ISBN978-4-7842-1503-4

## 祭りのしつらい 町家とまち並み

岩間香・西岡陽子編／京極寛写真

祇園祭・天神祭をはじめ、城端(富山県)や倉敷など各地の祭り飾りや造り物などをとりあげ、町家とまち並みを飾る祭りの文化を紹介。カラー60頁。

【内容】座敷を飾る／屏風祭の戦後60年／祭りの住文化とまちづくり／都市祭礼の最前線 など

▶B5判・224頁／定価2,310円 ISBN978-4-7842-1360-3

## 絵巻 大江山酒呑童子・芦引絵の世界

逸翁美術館編

2011年9月17日～12月4日まで行われた同名展の図録。館所蔵「大江山絵詞」(重文)とサントリー美術館所蔵「酒伝童子絵」を全巻カラー掲載し、酒呑童子絵巻の二大系統を対比させる。また僧侶と稚児の恋愛を中心に中世社会を生き活きと描き出した、館所蔵「芦引絵」(重文)などをも含め逸翁小林一三の絵巻コレクションを一挙公開。

▶A4判・96頁／定価1,050円 ISBN978-4-7842-1591-1

## 天皇・将軍・地下楽人の室町音楽史

三島暁子著

天皇家・将軍家の笙の御師範として重要な役割を果たした地下楽人豊原氏の南北朝から約150年にわたる活動に着目し、公・武・楽家という3者の関わりをのなかから、権威に密接にかかわった音の文化を論じる。

▶A5判・360頁／定価 6,930円 ISBN978-4-7842-1609-3

## 動物・植物写真と日本近代絵画

中川馨著

「明治後期から太平洋戦争以前の日本における動物・植物写真」を考察範囲とし、先行研究の少ないそれらの写真集の歴史にもスポットをあてて概説する。またその「動物・植物写真集」が、美術資料として担った役割を解き明かすことにより、近代日本の「写真」と「絵画」との関連性を論究する。

▶A5判・256頁／定価 5,250円 ISBN978-4-7842-1598-0

## 着衣する身体と女性の周縁化

武田佐知子編

「着衣」という共通の素材を通して、さまざまな社会におけるジェンダーのあり方を考察。グローバルな視点から、衣服と身体の表象について解き明かす論文集。取り上げる素材は、「民族衣装」「魔女」「リカちゃん人形」「マイケル・ジャクソン」等、多岐にわたる一書。

▶A5判・500頁／定価 6,090円

ISBN978-4-7842-1616-1

## ※布がつくる社会関係

金谷美和著

インド絞り染め布とムスリム職人の民族誌染色業者カトリートと、カトリートの生産する布について民族誌的記述を行うことで、布の生産で構築される社会関係と、布の使用で構築される社会関係について明らかにする。絞り染め布のもつ物質性への注目を喚起することによって、布を視点として社会を分析するという文化人類学的研究の新たな可能性を拓くことを目指した意欲作。

▶A5判・330頁／定価 6,510円

ISBN978-4-7842-1341-2

## 北太平洋の先住民交易と工芸

大塚和義編

アイヌをはじめとする北太平洋地域先住民の交易ルートの実態を明かし、併せて文化遺産としての工芸芸術を紹介。歴史学・考古学・化学分析などの学際的な最新の成果を盛り込んだ多彩な執筆による全34篇。先住民の暮らしと産業をビジュアルに理解できるカラー図版150点を収録。

▶A4判・150頁／定価2,940円

ISBN4-7842-1087-3

## 祈りの文化 大津絵模様・絵馬模様

信多純一著

江戸時代から現在まで近江大津追分にて作られ、手軽な土産として全国津々浦々の人々に愛された民画・大津絵。その多彩に綾なす信仰・祈り・教訓そして遊びの画題は多くの人々の想念の数々を端的に映し出す。その起源・絵馬との共通点・画題の意味などを多くの図版をあげて解説した大津絵事典。

▶B5判・178頁／定価3,675円

ISBN978-4-7842-1425-9

## 太子信仰と天神信仰 信仰と表現の位相

武田佐知子編

時代を超えて、上下を通じた諸階層の篤い崇敬を得てきた、両信仰の比較研究。各専門分野の研究者による、両信仰に関わる美術史、文学史、宗教史、芸能史的研究を集成し、時代のニーズとともに変化する信仰の形態や、それに付随するイメージの付与、そして宗派や地域を越えて多面的に利用されるそれぞれの信仰の進化形について明かす。

▶A5判・354頁／定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1473-0

## いけばなにみる日本文化

鈴木榮子著

明かされた花の歴史

古代の供花から現代のいけばなにいたるまで、日本文化に一貫して継承されてきた精神とは、「生」への意識すなわち生命を尊ぶ思想である―「お稽古事」としてとらえられがちで、外形の歴史にしか注目されてこなかったいけばな。その精神にはじめて学問的な光をあて、日本文化という大きな枠組みの中でとらえる。

▶46判・358頁／定価 2,730円

ISBN978-4-7842-1557-7

## 近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。【目次】第一部 近代茶道の三つの転換期／第二部 伝統文化の解釈者たち／第三部 茶道への理論的アプローチ

▶A5判・454頁／定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1377-1

## 応用美術思想導入の歴史

天貝義教著

「ウィーン博参同より意匠条例制定まで」―「博覧」「伝習」「勸業」を目的としたウィーン万国博覧会への日本初参加から二度の内国勸業博覧会を経て、「デザインの法」である意匠条例が制定されるまで、応用美術(＝美術を工業に利用する)思想がいかに明治期の美術・工芸界において指導的役割を果たしていったかを明らかにする。

▶A5判・400頁／定価7,875円

ISBN978-4-7842-1505-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。